どう見る？ 肖像画

本展では様々な人の姿を描いた「肖像画」が数多く展示されています。しかし、私たちはこれらの絵に描かれている人たちに会ったことがありません。では、肖像画を見ることとは、いったいどういう体験なのでしょうか。ここでは、いくつかの問いを手がかりに、肖像画と向き合う時間をつくってみましょう。

Q1 なぜこれらの絵は描かれたのか？

これらの絵は何のために描かれたのでしょうか。

- 描かれている人の権威や地位を示すため？
- 愛する人の姿を残すため？
- それとも、ただ「描きたい顔」だった？

➡ この絵が生まれた理由を想像してみましょう。

石橋和訓《男性肖像》制作年不詳

石橋和訓《出雲クマ肖像》1919年頃

Q2 絵の中の人はどんな人？

私たちは、この絵に描かれている人物を実際には知らないのにもかかわらず、「こんな人なのかな」と感じることがあるかもしれません。

- どんな人だと思いましたか。
- どんな性格、雰囲気、気配を感じましたか。

➡ それは、どこから生まれているのでしょうか。
顔つき？ 姿勢？ 視線？ 服装？ それとも画面全体の空気がそう思わせているのでしょうか。

Q3 人物以外に描かれているものは？

背景や小物にも意味が込められているかもしれません。

- 背景には何があるでしょうか。
- 何かを手に持っている人はいますか。

➡ 顔以外の要素が、人物の印象をどう変えていますか？
それらは人物を引き立てているでしょうか。
それとも、別の物語を生んでいますか。

石橋和訓《渡邊千代三郎肖像》1926年

Q4 絵のタイトルは？

今回の展示には、人物名がタイトルに含まれている肖像もあれば、《美人読詩》のように、人物を特定しない題名の肖像もあります。

- 人物名があると、私たちは何を見ようとするでしょうか。
- 人物名がないと、何に目が向くでしょうか。

➡ タイトルによって、あなたの見方はどう変わりましたか？

石橋和訓《美人読詩》1906年

石橋和訓《岡倉由三郎肖像》1928年

Q5 なぜこれは「肖像画」なのか？

人物を描いた絵は他にもたくさんあります。それでも、ある絵は「肖像画」と呼ばれます。

- 風景画の中の人物
- 歴史画の登場人物

➡ それらと、肖像画の中の人物は何が違うのでしょうか。
肖像画は、いったい何を一番大切に描いているのでしょうか。

石橋和訓《後藤和子肖像》制作年不詳

Q6 絵の中の人は「その人そのもの」なのか、それとも？

私たちは、この人物の本当の姿を知りません。では、この肖像画は、

- その人の「ありのまま」を描こうとしているのでしょうか。
- それとも、あるイメージ、ある役割、ある理想像を示しているのでしょうか。

➡ これらの絵は、単にモデルの見た目を正確に写したものなのでしょうか。それとも、「こういう人であってほしい姿」を表しているのでしょうか。はたして絵の中にいるのは、現実の人物なのか、それとも絵の中にしか存在しない人物なのでしょうか。

石橋和訓《叔母藤原こよ肖像》1918-19年

Q7 この人に会ったことはない。でも…

これらの絵に描かれている人物に、私たちは会ったことがありません。それでもこれらの絵からはその人の雰囲気や気配、人となりが伝わってきます。

- あなたは絵の中の人物とどのように向き合いますか？

➡ 肖像画を見ることは、「過去の誰か」を知ることである以上に、いま、この場で新しく絵の中の人物と出会うことなのかもしれません。